

カッコウのカヤクグリへの托卵

吉田幸弘

〒 220-0042 横浜市西区戸部町 3-105-1

1978年8月に富士山でカッコウ *Cuculus canorus* が托卵したカヤクグリ *Prunella rubida* の巣を発見したので報告する。カッコウはわが国では、モズ *Lanius bucephalus*, オオヨシキリ *Acrocephalus arundinaceus*, オナガ *Cyanopica cyana* など28種に托卵することが知られている (Nakamura 1990)。カヤクグリへの托卵についてはNakamura (1990) が堀田私信として引用しているが、正式な論文として発表されていないので、ここに詳細を報告する。

カッコウが托卵したカヤクグリの巣は、1978年8月14日に静岡県駿東郡小山町の富士山須走口登山道の本5合目付近(標高2,400 m)で発見した。営巣場所はかなり起伏に富んだ砂礫地と樹林が帯状に幾筋にもなっており、樹林は風当たりの弱い所では樹高4~5 mのコメツガ *Tsuga diversifolia*, シラビソ *Abies veitchii*, ハイマツ *Pinus pumila*, ダケカンバ *Betula ermanii*, ミヤマハンノキ *Alnus maximowiczii* などが混生していた。カヤクグリの巣は林縁より5 m程林内に入ったコメツガの地上約1 mの高さの横枝に作られていた。

7月22日にカヤクグリの完成した巣を発見したが、この日はまだ産卵されていなかった。8月14日この巣でふ化後2~3日と思われる、目も開かない丸裸のヒナ1羽を発見した。このヒナは脇腹などがピンクがかった肌の色に対し、頭から背中にかけてすすけた様な黒っぽい肌の色をしていた。

8月20日、このヒナはカヤクグリのヒナとは明らかに異なり、羽色は白と黒褐色の縞模様になり、口内が赤くカッコウ類のヒナであることがわかった。ヒナの大きさはカヤクグリより少し小さいくらいに成長しており、目は開いていた。

8月23日にはヒナは仮親であるカヤクグリより大きく産座いっぱい成長して、仮親に食物をねだっていた(図1, 2)。

8月26日にはヒナはますます大きく成長しており、27日の午後にはヒナは巣の縁に止まるまでになり、枝移りによる巣立ちに近い様子であった。観察はこの日までで、巣立ちを確認できなかった。巣立ち直前の観察から、カヤクグリに育てられていた托卵鳥のヒナは、背中や翼の羽色は黒褐色で赤褐色の斑紋があり、羽縁の先が白色をしていた。翼縁は明瞭な黒褐色と白の横縞模様があった。頭部と喉は黒褐色と白の細かい斑模様で、胸から腹にかけては黒褐色と白の横縞模様であった。口内は赤かった(図1, 2)。後頭部の白斑は発見時に撮影した数十枚の写真をよく調べたが、このヒナには認められなかった。

ツツドリ *C. saturatus* のヒナの羽色は背面、喉と胸は黒に近い黒褐色で各羽にかすかな白



図1. カッコウのヒナに給餌するカヤクグリ
Fig. 1. A nestling of Cuckoo was fed by a Japanese Accentor.



図2. カッコウのヒナの翼縁に明瞭な黒褐色と白の横縞模様がある
Fig. 2. This nestling had clear dark blackish brown and white bars on the edge of the wing.

色羽縁がある。腹は黒褐色と白の横縞であるが横縞は不明瞭で全体が黒っぽく、翼縁は白色、時として不鮮明な淡黒色の横縞がある（山階 1980, Higuchi & Payne 1986）。ホトトギス *C. poliocephalus* のヒナの羽色は、上面は灰黒色または黒褐色をしており各羽にかすかな白色

羽縁がある。喉と胸は灰黒色または黒褐色と白の帯か、灰黒色または黒褐色地に不規則な白斑が混じる。腹は白地に灰黒色または黒褐色のはっきりした横縞模様である。翼縁は黒と白の不明瞭な帯あるいは斑である (Higuchi & Payne 1986)。両種のヒナは共に全体が黒っぽく、今回観察したカヤクグリへの托卵鳥のヒナとは羽色が異なる。

ジュウイチ *C. fugax* のヒナの翼縁は濃淡のバフ白色で無斑紋である (山階 1980)。著者の 10 例程の観察では上面から喉まで黒色で羽縁の先は白くなく、口内と目の周囲は黄色をしておりこのヒナとは異なる。

カッコウのヒナは上面の羽色は暗い褐色に赤褐色の横縞があり、各羽に白色羽縁がある。頭部に 1 つか 2 つの白斑がほとんど全ての場合にある。喉と胸は黒くなく、下面の他の部分と同様に白と黒の横縞模様になっている。翼縁は黒と白の細かい横縞がある (山階 1980, Higuchi & Sato 1984)。また後頭部の白斑については少数ではあるが白斑のないカッコウもいる (今西貞夫 私信)。今回発見した托卵鳥のヒナはカッコウのヒナの特徴とよく一致している。カッコウの生息地の標高については北アルプスでは標高 1600 m 以下、北海道大雪山では標高 1800 m、長野県志賀高原では標高 1800 m の記録がある (清棲 1981, Nakamura 1990)。今回標高 2400 m の亜高山帯で発見したカッコウの托卵例は最も高い生息地の記録である。

今回の報告を前に最新のカヤクグリへの托卵状況を確認するため、1997 年 8 月 2、3、23、24 日の 4 日間、本 5 合目まで登り林縁を中心に現地調査を行なった。その結果カヤクグリの 3 卵が入った 1 巣と完成した 1 巣を 8 月 3 日に発見した。しかしながら今回の調査は 4 日間だけであったので、調査地付近ではカッコウの鳴き声および姿を認めることはできなかった。またカッコウが托卵したカヤクグリの巣は発見できなかった。したがってカッコウが継続して托卵しているかどうかは不明であった。

今回報告するに当たり、文献の収集と貴重な助言をいただいた和光大学の今西貞夫氏、並びに一緒に撮影し、ヨーロッパカヤクグリについて教えていただいた伊東誠氏に感謝申し上げます。

引用文献

- Higuchi, H. & Sato, S. 1984. An example of character release in host selection and egg colour of cuckoos *Cuculus* spp. in Japan. *Ibis* 126: 398-404.
- Higuchi, H. & Payne, R. 1986. Nestling and fledgling plumages of *Cuculus saturatus horsfieldi* and *C. poliocephalus poliocephalus* in Japan. *Jap. J. Ornithol.* 35: 61-65.
- 清棲幸保. 1981. 増補改訂版 日本鳥類大図鑑. 講談社, 東京.
- Nakamura, H. 1990. Brood parasitism by the Cuckoo *Cuculus canorus* in Japan and the start of new parasitism on the Azure-winged Magpie *Cyanopica cyana*. *Jap. J. Ornithol.* 39: 1-18.
- 山階芳麿. 1980. 復刻版 日本の鳥類と其の生態 第 2 巻. 出版科学総合研究所, 東京.

Brood parasitism of the Japanese Accentor *Prunella rubida* by the Cuckoo *Cuculus canorus* on Mt. Fuji in Japan

Yukihiro Yoshida

Tobechou 3-105-1, Nishi-Ku, Yokohama, Kanagawa 220-0042.

A first observation of brood parasitism of the Cuckoo *Cuculus canorus* on the Japanese Accentor *Prunella rubida* was recorded on Mt. Fuji (2,400 m alt.), Subashiriguchi, Shizuoka Prefecture, central Japan, on August 14, 1978. A cuckoo nestling reared by the Japanese Accentor was identified as the Cuckoo's young from the following features: (1) the upper plumage of this nestling was dark blackish brown (DBB hereafter) with brown speckles, and the feathers were clearly fringed with white, (2) the head and throat were DBB with white fine speckles, and (3) the breast and ventral part were banded with DBB and white. The nestling had clear DBB and white bars on the edges of the wing. Inside of the mouth was reddish. This is the first record of a Cuckoo nestling above the subalpine habitat at the highest altitude (2,400 m asl.) in Japan.

Key words: brood parasitism, Cuckoo, Japanese Accentor, Mt. Fuji